



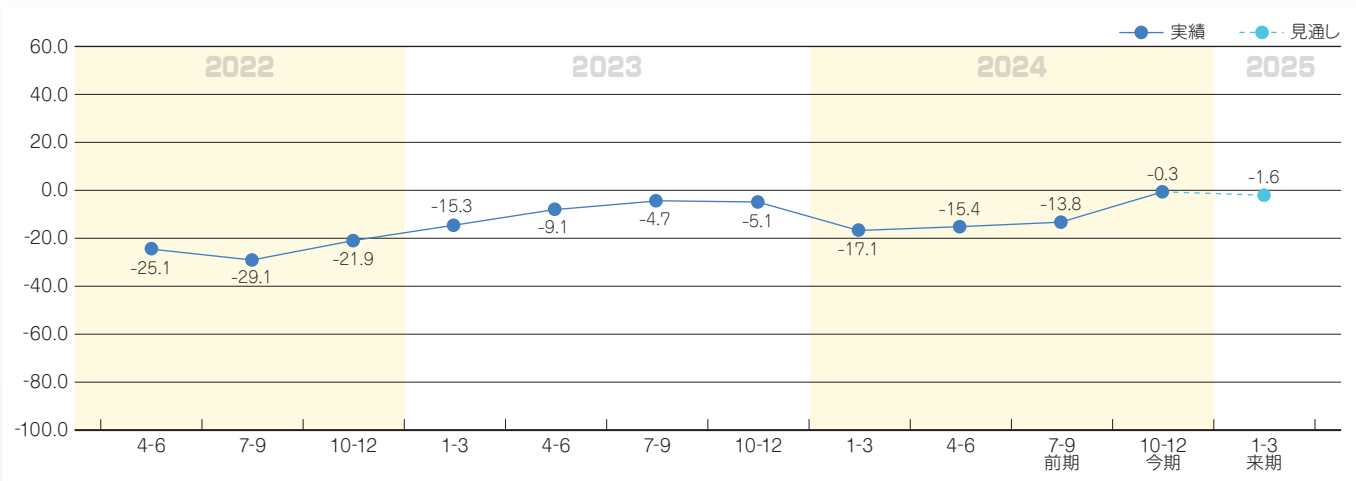
全業種

回答数322社

今期の業況D-Iは、前期比13.5ポイント上昇の▲0.3と、3期連続で改善した。小売業を除くすべての業種で改善。卸売業、サービス業、建設・不動産業はプラスに転じた。来期の予想業況D-Iは、1.3ポイント低下の▲1.6とわずかに悪化の見通し。製造業と卸売業は来期も改善を見込む。

前期実績 今期実績 来期見通し

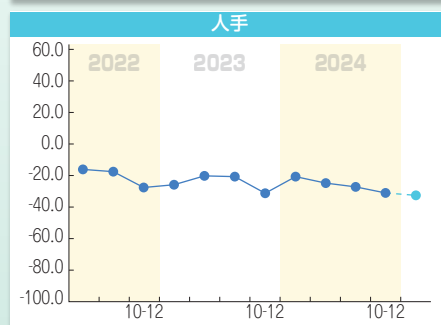
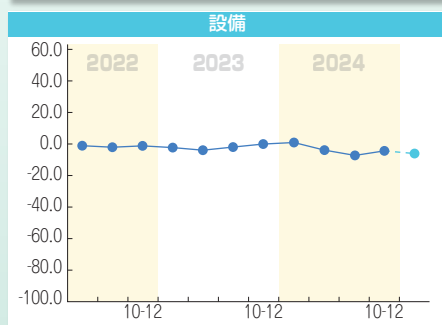
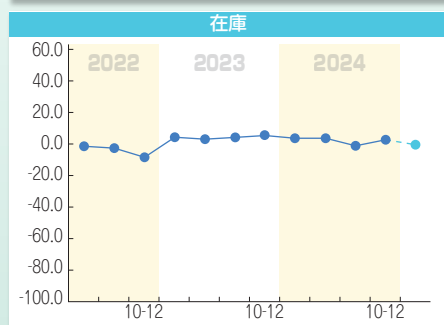
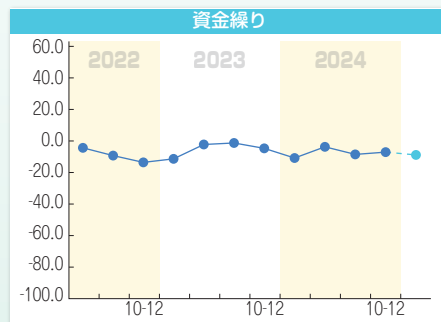
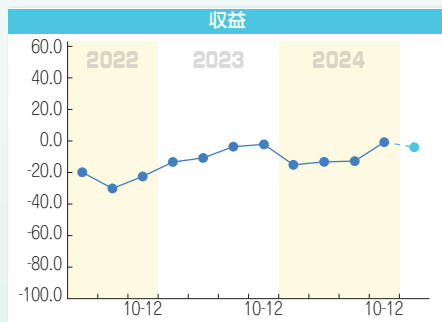
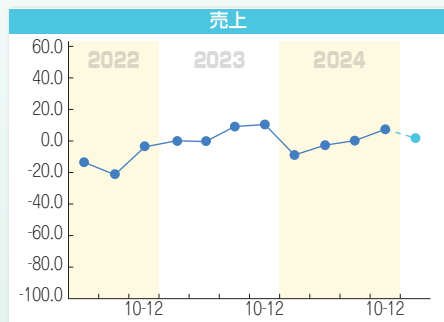
業況D-I
の推移



主要D-Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



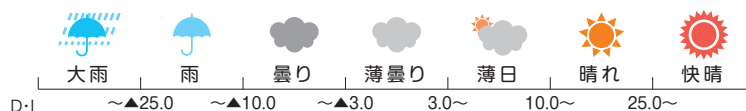
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

実施時期 2024年12月2日～6日
対象企業 322社
対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)－(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

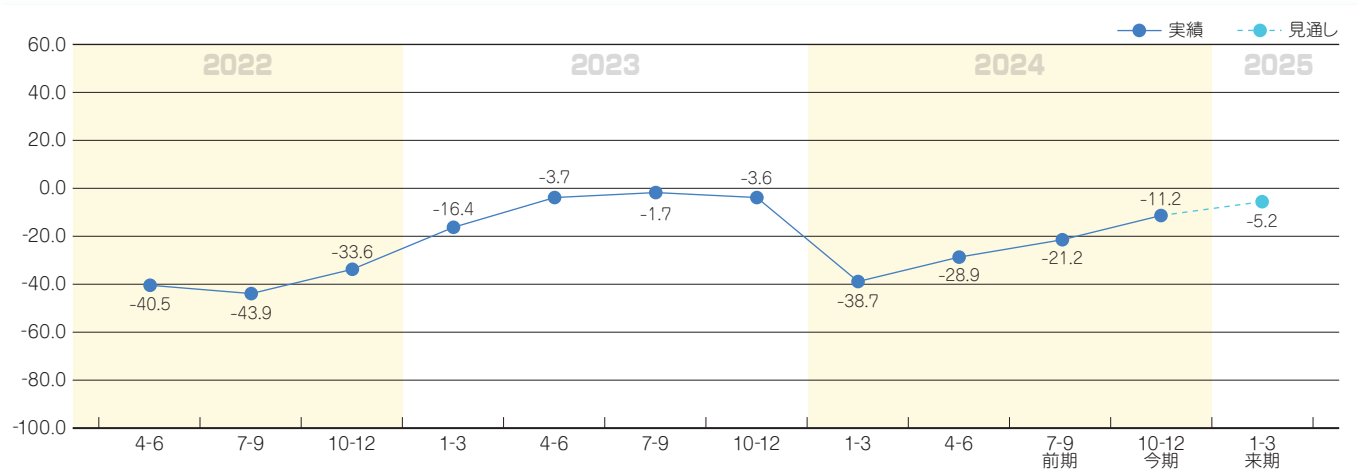


製造業

回答数116社

今期の業況D・Iは、前期比10.0ポイント上昇の▲11.2と、3期連続で改善。自動車の認証不正問題の影響による落ち込みからの回復が続く。価格転嫁ができているとの声も多く、収益も改善基調。来期の予想業況D・Iは6.0ポイント上昇の▲5.2と、さらに改善の見通し。

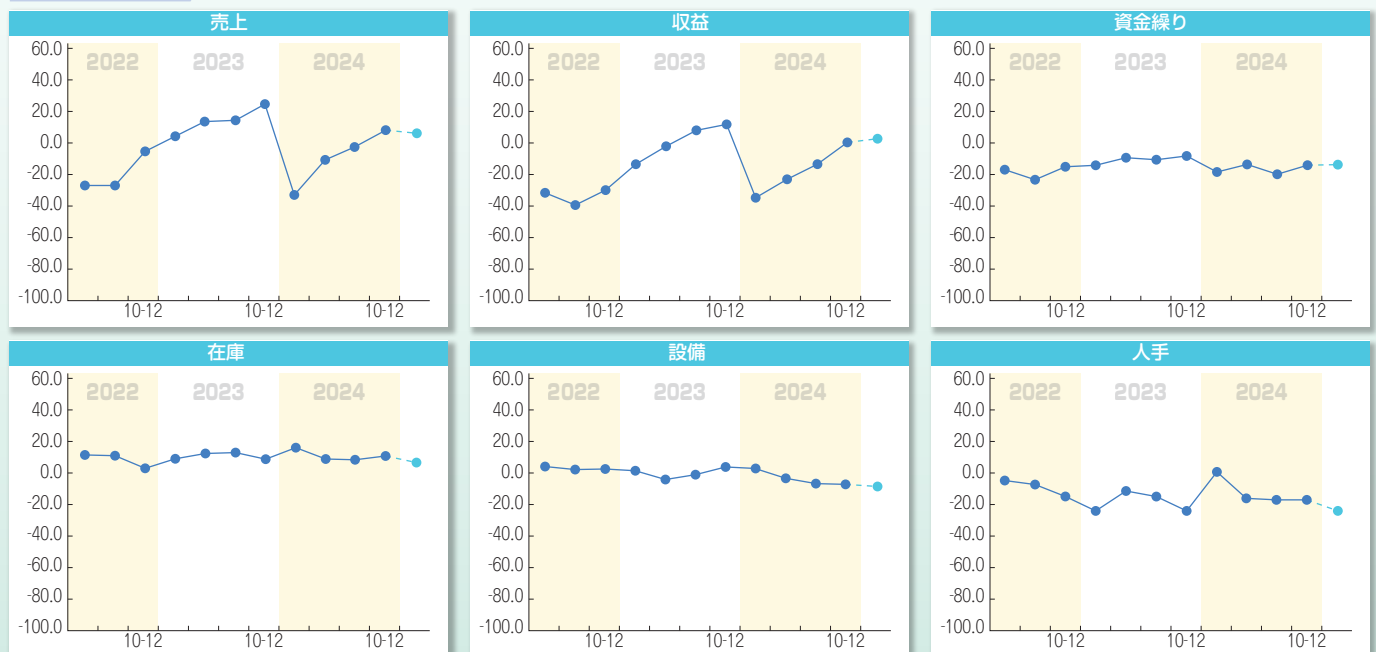
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



- 単価交渉中で、6～7割程は交渉完了した。来期にかけては一定の利益を確保できるものと推測。近々、設備投資の予定もあり、受注増加が見込まれる。(自動車部品製造)
- 利益改善に向け、固定費の見直しを行っている。賃料削減のため、事務所の移転を検討中。(ダイレクトメール発行)
- 金融機関からの紹介の人材採用マッチングを活用し、2025年1月より若手社員が入社予定。事業拡大のため今後も増員予定。(専用工作機械製造)





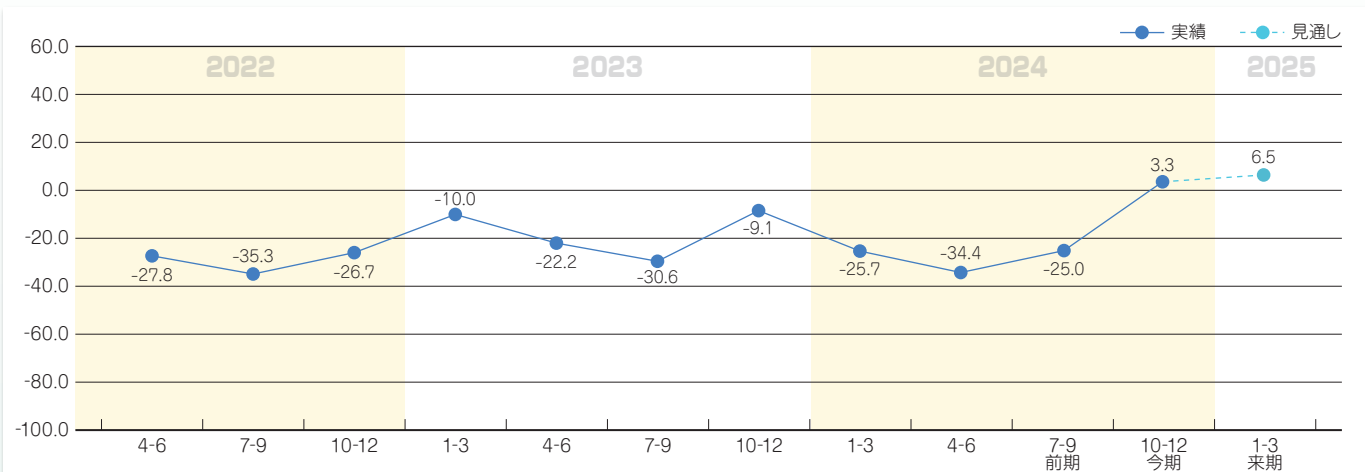
卸売業

回答数31社

今期の業況D・Iは、前期比28.3ポイント上昇の3.3と、大幅に改善。5年ぶりにプラスに転じた。売上、収益とも大幅に改善。価格転嫁が進んでいるとの声が多い。人材確保が課題との声も目立った。来期の予想業況D・Iは3.2ポイント上昇の6.5と、来期も改善の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

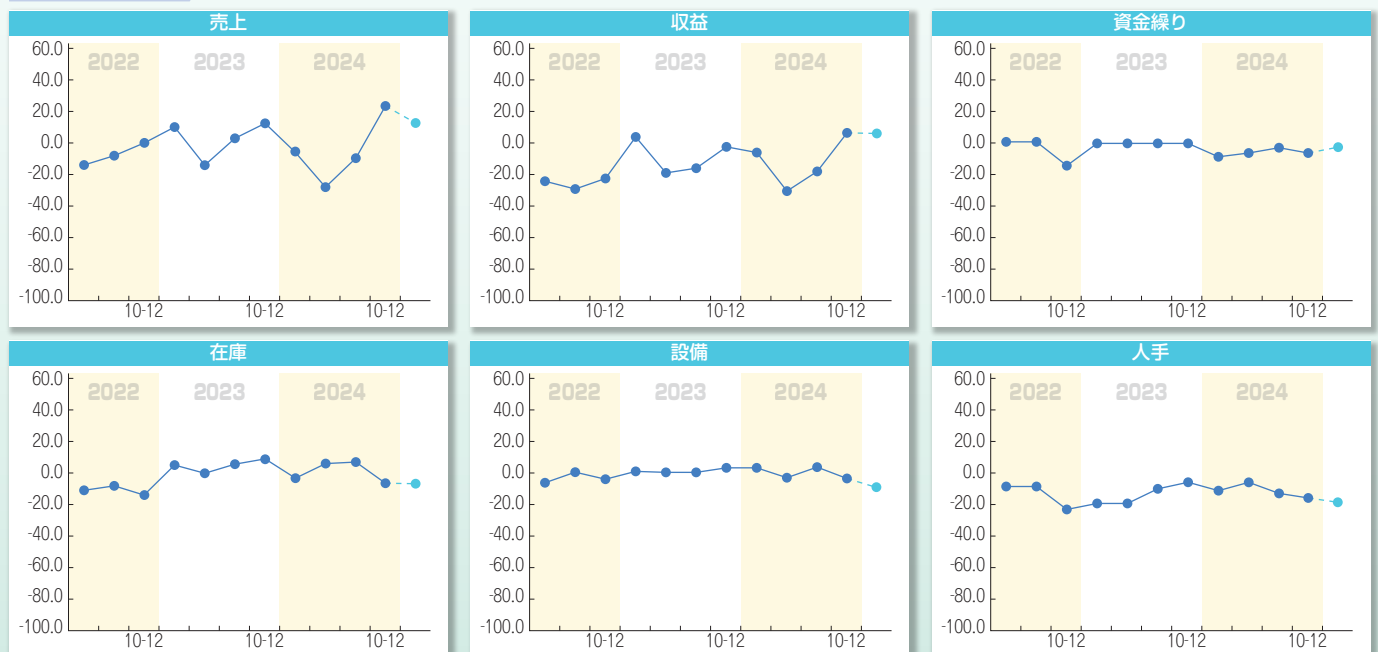
業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 昨年度に導入した大型設備が順調に稼働。他にも新規設備の導入を予定しており、業況は今後も良好に推移していく見込み。(食品卸売)
- 価格転嫁実施済み。業績も良く安定している。(鋼材卸売)
- 従業員の減少に伴い、外注費等が利益を圧迫。苦しい状況が続いている。人材確保が急務。(土木資材卸売)



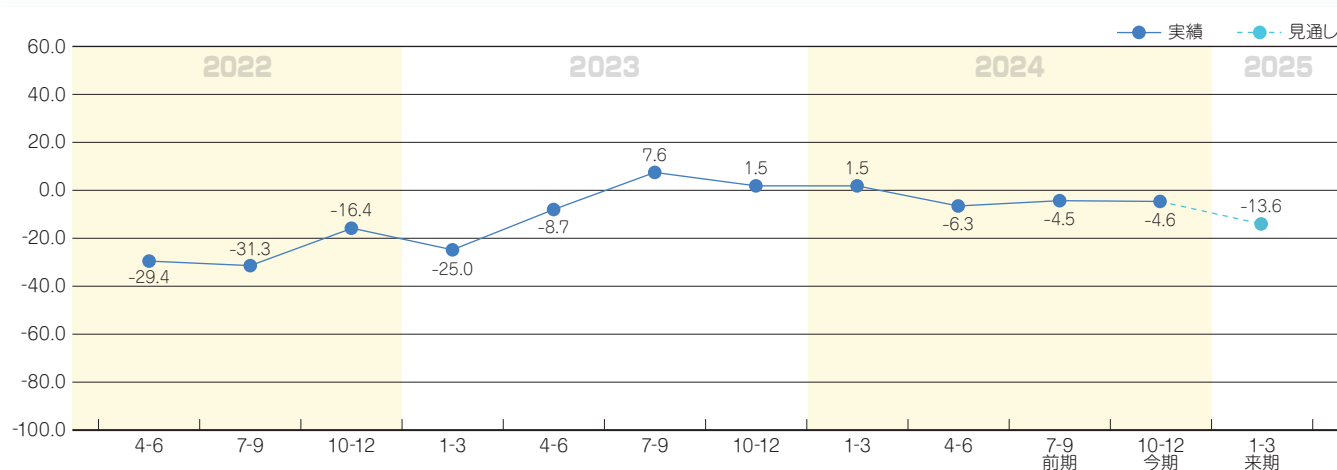
小売業

回答数66社

今期の業況D・Iは、前期比0.1ポイント低下の▲4.6とほぼ横ばい。収益は前期比で改善したものの、依然マイナス水準。仕入価格高騰の影響により収益が圧迫されているとの声が多い。来期の予想業況D・Iは9.0ポイント低下の▲13.6。さらなるコスト上昇を懸念する声も聞かれた。

前期実績 今期実績 来期見通し

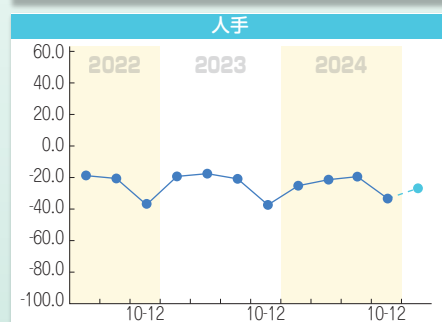
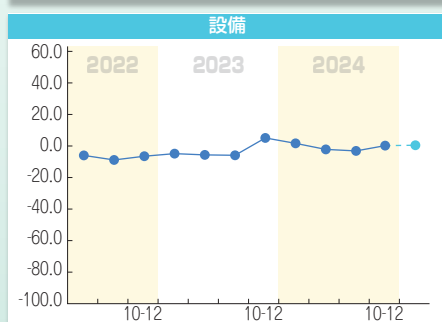
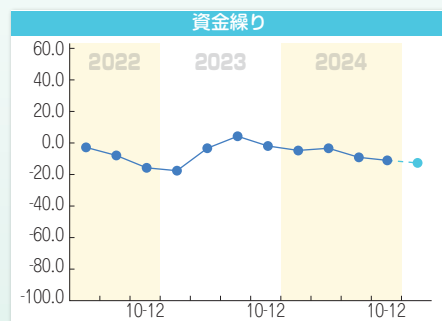
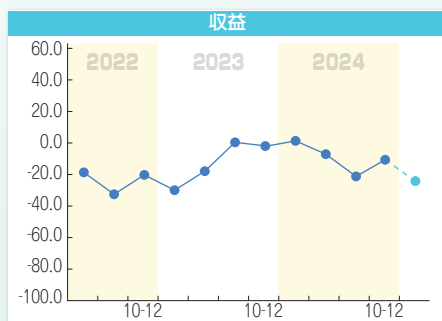
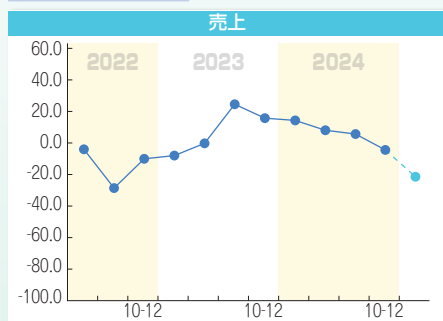
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 納車1年待ちなど長期間売上に反映されない分もあるため、業況は悪い。(自動車販売)
- 仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できず厳しい状況。販売価格の引き上げと諸経費削減による収益改善が課題。(飲食店)
- 物価上昇局面でも客数は変わらず。割高(高額)商品の売れ行きが悪く、安価な商品が売れており、客単価が下落している。(コンビニエンスストア)





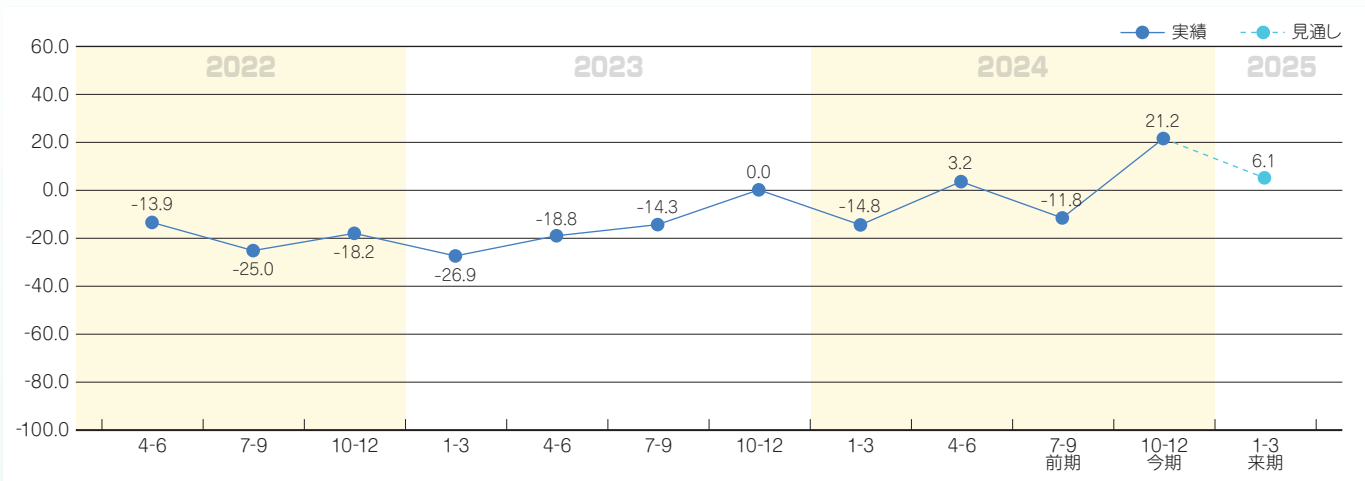
サービス業

回答数33社

今期の業況D・Iは、前期比33.0ポイント上昇の21.2と、大幅に改善。売上、収益ともに改善した。一方で、6割以上の企業が人手不足と回答しており、依然として他業種と比べ最も人手不足感が強い。来期の予想業況D・Iは15.1ポイント低下の6.1と、悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

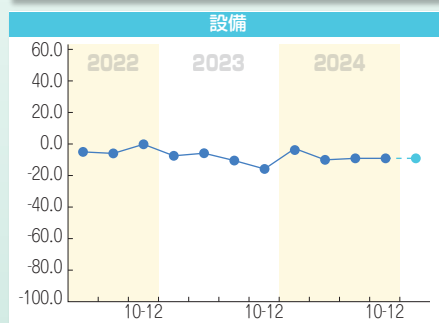
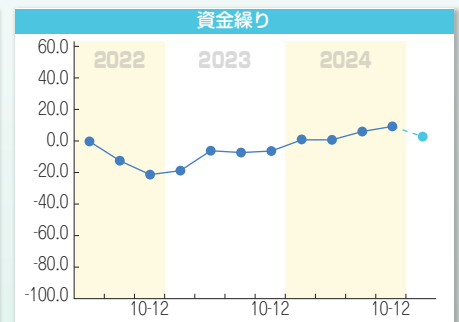
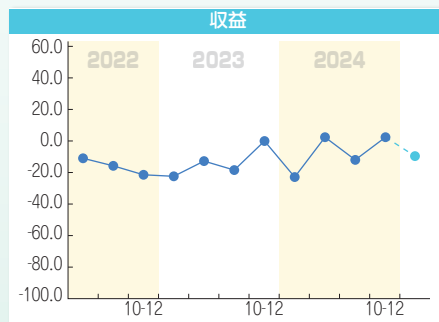
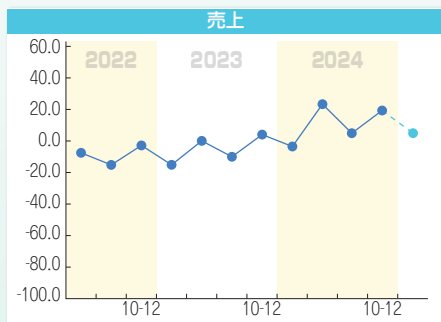
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 近隣に同業他社が新しく店舗を構えるなど、売上の停滞が大きな課題の一つとなっている。技術力の向上などにより、売上の改善を目指したい。(理美容業)
- 美容業界全体として、人員確保・人材育成が課題。HPの採用ページに力を入れている。(エステティックサロン)
- 売上は昨年と比べ増加傾向であり、今後は店舗拡大に向けて取り組んでいく。(クリーニング店)

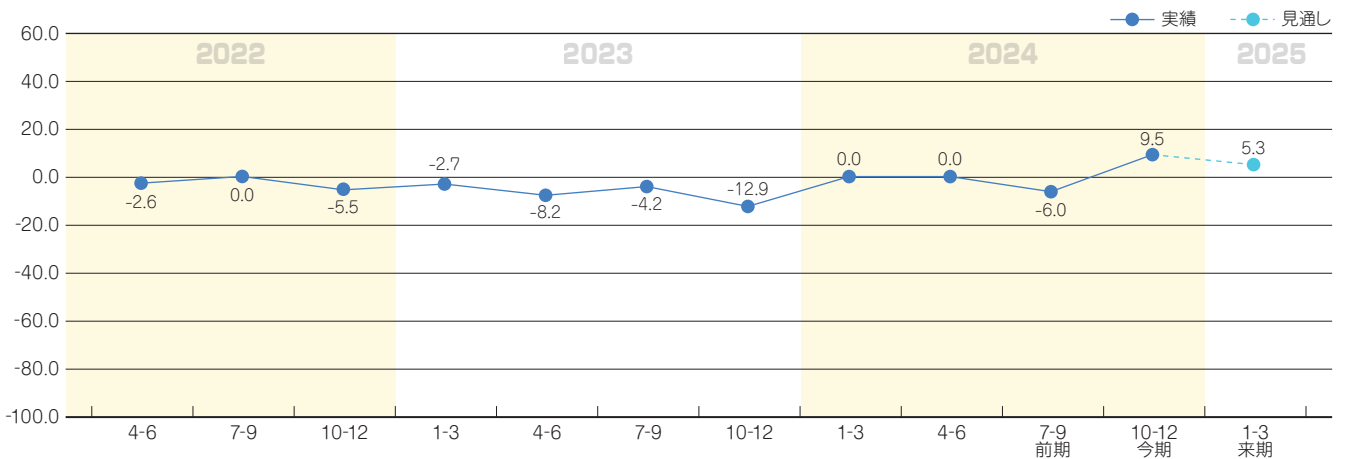


建設・不動産業

回答数74社

今期の業況D・Iは、前期比15.5ポイント上昇の9.5と改善した。売上、収益ともに安定して推移。原材料価格や人件費増加により収益が悪化しているとの声もある。来期の予想業況D・Iは4.2ポイント低下の5.3と、やや悪化の見通し。人手不足感はさらに強まる見込み。

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移 (注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



- 現場管理責任者の不足により、売上、利益の減少が見込まれるため、特に人材不足の解決が必要と感じている。(建築業)
- 人材が高齢化している点、働き方改革で稼働時間が限られる点等の影響で受注を選択せざるを得ない部分もある。材料費高騰、賃金上昇といったコスト高に伴い、利益は減少の見通し。(土木・建築業)
- 販売、売上状況はおおむね良好。今後、金利上昇等の影響もありコスト増が懸念される。(建売販売)

